

## でんくう



カマツカ

**赤**い実が目につく季節になった。カマツカ(バラ科)は折れにくく丈夫で鎌の柄(つか)に用いられたのでこの名が付いた。黄葉も美しくよく見かける。バラ科の似たような実はたくさんあるが、葉や実の付き方をよく憶えておこう。この絵の中央にはカマキリがさりげなく描かれているが、黒沢さんの「カマ」をかけたしゃれ心でしょう。

コムラサキシキブ(クマツヅラ科)は一般にはムラサキシキブと呼ばれたり、コムラサキと表示されたり。名前はともかく紫の実が少ないので、すぐ目につく。園芸種が普及しているので山より庭で見かけることが多い。山でときどき見かけるのはムラサキシキブのようで、葉が落ちて実だけ残っている。右上に配置されているのは、ルリタテハ。成虫で越冬するのでほかほか陽気の時は日向ぼっこをしている姿をよく見かける。

黒沢正治さん(多可町中区)の繊細で美しい植物画で季節の花を紹介します。これらは絵葉書として、でんくう総合案内所で販売されています。



コムラサキシキブ